

【11 月以降の活動予定他】

◎お遍路さんお接待

日時：11 月 3 日（月）7:30～

場所：藤井寺

◎映画「道草キッチン」PR イベント：道草マルシェ

日時：11 月 16 日（日）16:00～21:00

場所：鴨島駅前イベント広場、HOSTEL OE 駐車場

概要：映画 PR、ベトナム料理販売や竹遊びなど

◎外国人お遍路ガイド

第 36 回 11 月 22 日（土）13:00～14:30

場所：文化研修センター

◎国際交流バスツアー

日時：11 月 23 日（日）7:00～18:30

場所：神戸

◎第 9 回グローバルセミナー

講師：アティさん（南アフリカ出身、阿波市 ALT）

日時：11 月 29 日（土）13:30～14:30

場所：文化研修センター研修室 4

◎第 8 回理事会

日時：11 月 29 日（土）15:00～16:00

場所：文化研修センター研修室 4

◆浴衣・着物着付け体験

安部 正美



10 月 5 日に浴衣・着物着付け体験を実施しました。今回も、小川和美さん、渡部真弓さんのご厚意により、打掛・羽織袴・ウェディングドレス・チャイナドレスとたくさんの衣装をご用意して下さいました。浴衣、着物を着た人 35 名、着付け指導・国際交流協会関係者他 13 名の参加がありました。YIA で用意した浴衣は 19 着でしたが、YIA 理事たちも自分の浴衣、着物を持参し、ほぼ全員に着ていただくことができました。13 時半に萩森副会長が用意した三角くじを参加者が引き、順番に

自分の選んだ 浴衣に着替え記念撮影をしました。

アトラクションとして渡部真弓さんが袴姿で日舞を披露された後、受講生 5 人が舞扇子の扱い方に挑戦！渡部さんに舞扇子の開き方、回し方を教えていただきました。上手に使うことができた 5 人に瀬尾会長よりグッドパフォーマンス賞が授与されました。



その後は思い思いのポーズで写真撮影をされていました。受講生の皆さんにたいへん喜んでいただき、今回も大盛況でとても嬉しく思いました。参加者の皆さん関係者の皆さんありがとうございました。



◆藤井寺お接待の初体験

新見 眞理子

10 月 15 日、藤井寺でお接待を初体験しました。私は銀杏を煎って持って行きました。朝早くから雨模様の天気にかかわらず、次々とお遍路さんが訪れていました。国内、台湾、U S A からのお遍路さんも多かったです。みなさん、私たちの無償のお接待をととても喜んでくださって、中には記念品やカード、お札の裏にメッセージを書いた物をくださる方もいました。サンティアゴ巡礼路のおもてなしは寄付制です。

柿や銀杏が人気で銀杏をピスタチオみたいと言って食べてくれました。また、遍路道に鈴なりになっている柿を見てどんな味が知りたかったそうです。



私が今年の 5～6 月に行ったサンティアゴ巡礼に何年か前に行ったという方がいて、話が盛り上がりました。熊野古道のことを知らせると、とても興味津々で日本滞在中に行ってみると言っていました。

かなり多くのお遍路さんが、焼山寺まで遍路ころがしの難所を登って行く姿を見送り、彼らの巡礼に対する本気度を知るとともに、全員無事に日暮れまでに到着するよう祈らずにはいらませんでした。私はサンティアゴ巡礼中いろんな所でおもてなしを受けたので、今回のお接待に参加してほんの少しですがお返しできたかと思い感慨に浸ることができました。今回は2時間ぐらいしか参加できなかったのですが、次回チャンスがあればもう少し長時間のお接待をしたいと思いました。

◆国際理解講座「吉野川市内在住の外国人との共生について」をきいて 川村 雅子

9月27日、協会の副会長でもある萩森健治さんが、外国人の受け入れや技能実習生の推移などについて、わかりやすく説明しました。コロナ禍以降は、吉野川市だけでなく全国的にも在留外国人は増え続けており、2025年1月時点では市の人口の約1.5%が外国人であるとのこと。



実際通勤中に、自転車に乗った外国人をよく見かけられるようになりました。学校でも外国籍の生徒が数人いるのが当たり前になったように思います。市の人口が減り、生産年齢人口も減り、高齢化がどんどん進むなか、技能実習生や特定技能として来日された外国の人たちがマンパワーとして地域を支えてくれるのはありがたいことです。個人的には、できれば末永く地域の活力としてとどまってほしいなと思います。実習が終わって帰国してからも、「吉野川市はいいところだったな。またあの地域で仕事がしたいな」と思ってもらえればうれしいです。そのためにできることは何があるでしょう？ 例えば困ったときに気軽に相談ができる窓口があるとか、日本語がわからない子どもでも学校で必要な教育が受けられるとか、周囲の人がフレンドリーに接してくれるなど、行政レベル、職場や学校レベル、個人レベルでできるサポートがそれぞれあります。どの立場でも、「自分が外国で暮らしていたら、きっと不安な気持ちになるだろうな」とわが身に置き換えて接することが大事なのではないかと感じました。多文化共生には、生活様式や考え方の違いなどさまざまな

課題もありますが、お互いに良い関係を築いて、末長く交流できれば素晴らしいな、としみじみ考えさせられる講座でした。

◆四国大学オープンカレッジに参加 萩森 健治

10月19日、四国大学主催の「日本ってどんな社会？」と題する講座が Zoom によるオンラインで開催され、同大学の留学生3名、YIA 日本語教室の受講生8名、徳島工業短大の留学生3名、その他講師6名が参加し、日本で暮した感想を話合いました。



始めに、留学生3名が、ネパールの結婚式やデザイン祭り、ベトナムの

結婚式、バングラディッシュの地理や自然環境などを動画で紹介。つぎに、「やさしい日本語」や日本語で困ったことなどについて、わかりやすい日本語で話してほしい、日本語では同じ意味でも多くの語彙があり難しい、お互いに思いやりを持ってゆっくり話してほしいなどの要望を話しました。

つぎに、YIA 日本語教室について PP で簡単に紹介し、受講生2名が教室での感想を話しました。トゥイさん(ベトナム)は、来日間もないとき仕事上の言葉が解らなくて何回も聞き返したら怒られた。今は阿波弁も解る。最近いろいろな物が高く、特にお米が高くて困る。エルウィン君(インドネシア)は、介護施設で年寄りの阿波弁が解らなくて困ったが、すぐに覚えた。ずっと日本で働きたいなど。

参加した皆さんは少し緊張しながらも上手な日本語で日本での感想を紹介。外国人受講生らも初めての体験でしたが、楽しそうに話していました。1時間のトークは短すぎたようで、留学生や受講生らからはもっとたくさん話したかったとのことでした。

